

2023年3月期 第2四半期 決算短信補足資料



2023年3月期 第2四半期決算概況



2023年3月期 第2四半期 サマリー

- ・魚価上昇や食品の値上げ、円安で増収も営業利益は若干減益。計画比では順調に推移。
- ・子会社の日水製薬株式売却もあり四半期純利益は増益。中間配当を2円増配。

- 水産は前期から引き続き消費が堅調なうえ魚価にも恵まれ増収増益。
- 食品は増収もコストアップ影響が大きく減益。

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期比		2023年3月期 計画	進捗率
			増減	増減率(%)		(%)
売上高	3,396 億円	3,772 億円	375 億円	11.1	7,200 億円	52.4
営業利益	138 億円	133 億円	▲5 億円	▲3.8	225 億円	59.3
経常利益	161 億円	147 億円	▲14 億円	▲8.9	255 億円	57.7
四半期 純利益	114 億円	117 億円	3 億円	3.0	180 億円	65.3

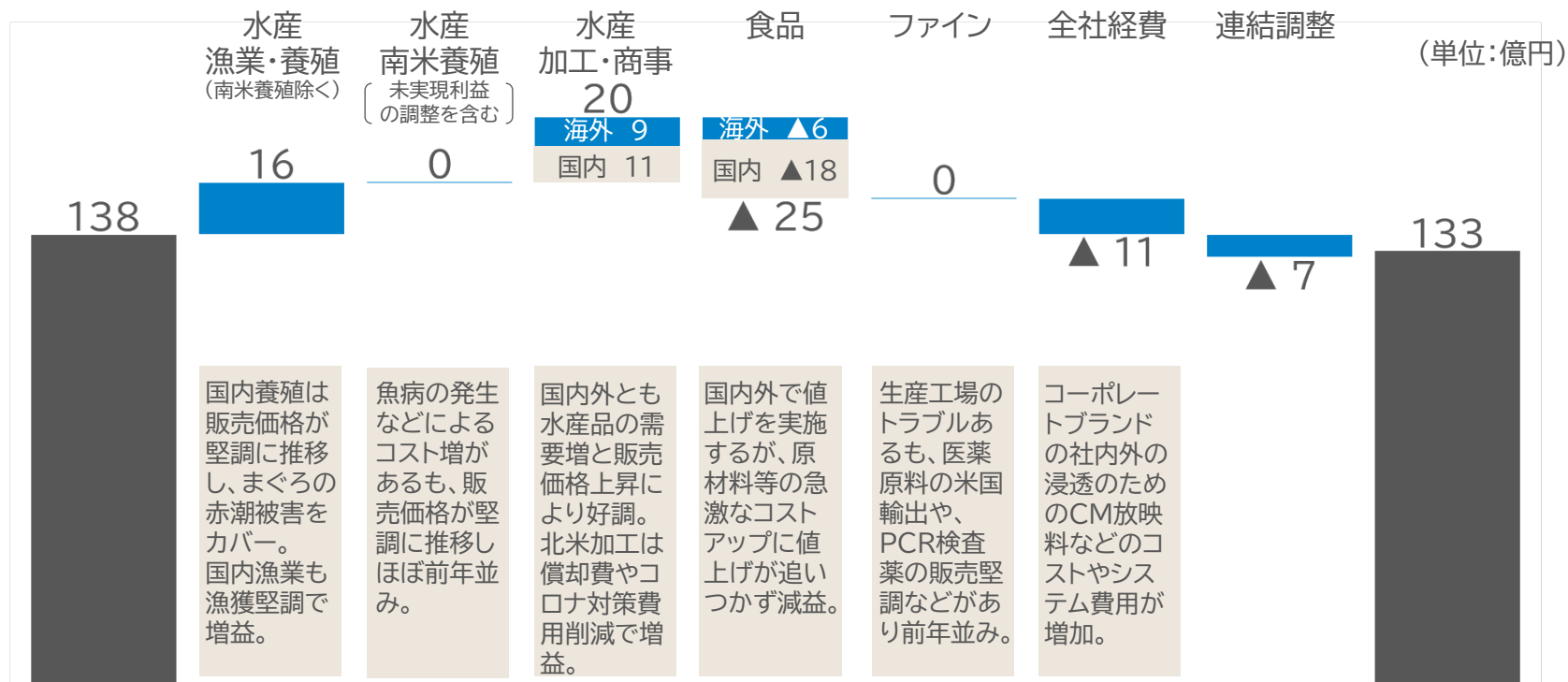
2023年3月期 第2四半期 セグメント別概況

為替影響を含め、水産・食品が大幅増収。

(単位:億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	3,396	3,772	375	11.1
水産事業	1,356	1,574	218	16.1
食品事業	1,661	1,873	212	12.8
ファインケミカル事業	162	171	9	5.6
物流事業	79	80	0	0.6
その他	136	72	▲64	▲47.3
営業利益	138	133	▲5	▲3.8
水産事業	50	82	31	61.4
食品事業	94	69	▲25	▲26.5
ファインケミカル事業	17	18	0	4.7
物流事業	10	8	▲1	▲14.7
その他	4	4	▲0	▲5.5
全社経費	▲38	▲49	▲10	27.5
経常利益	161	147	▲14	▲8.9
親会社株主に帰属する四半期純利益	114	117	3	3.0

2023年3月期 第2四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

- ・消費、販売価格堅調な水産が大幅増益で、苦戦する食品をカバー。
- ・コーポレートブランド浸透に向けた投資もあり全社経費は増加。



2023年3月期 第2四半期 連結貸借対照表(前期末比)

前期末比では棚卸資産、短期借入金が増加。

()内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

<table border="1"> <tr> <td>流動資産</td> <td>3,006</td> <td>(+355)</td> </tr> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>114</td> <td>(▲23)</td> </tr> <tr> <td>受取手形及び売掛金</td> <td>963</td> <td>(+60)</td> </tr> <tr> <td>棚卸資産(在庫)</td> <td>1,715</td> <td>(+274)</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td>2,462</td> <td>(+55)</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産</td> <td>1,502</td> <td>(+48)</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産</td> <td>124</td> <td>(+12)</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産</td> <td>834</td> <td>(▲5)</td> </tr> <tr> <td>総資産</td> <td>5,468</td> <td>(+411)</td> </tr> </table>	流動資産	3,006	(+355)	現金及び預金	114	(▲23)	受取手形及び売掛金	963	(+60)	棚卸資産(在庫)	1,715	(+274)	固定資産	2,462	(+55)	有形固定資産	1,502	(+48)	無形固定資産	124	(+12)	投資その他の資産	834	(▲5)	総資産	5,468	(+411)	<table border="1"> <tr> <td>流動負債</td> <td>2,092</td> <td>(+314)</td> </tr> <tr> <td>支払手形及び買掛金</td> <td>477</td> <td>(▲25)</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td>1,160</td> <td>(+328)</td> </tr> <tr> <td>未払費用</td> <td>259</td> <td>(+7)</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td>1,179</td> <td>(▲13)</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>923</td> <td>(▲25)</td> </tr> <tr> <td>純資産</td> <td>2,196</td> <td>(+110)</td> </tr> <tr> <td>自己資本</td> <td>2,146</td> <td>(+248)</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">自己資本比率</td> </tr> <tr> <td>'22/3</td> <td>37.5%</td> <td>⇒ '22/9 39.3%</td> </tr> </table>	流動負債	2,092	(+314)	支払手形及び買掛金	477	(▲25)	短期借入金	1,160	(+328)	未払費用	259	(+7)	固定負債	1,179	(▲13)	長期借入金	923	(▲25)	純資産	2,196	(+110)	自己資本	2,146	(+248)	自己資本比率			'22/3	37.5%	⇒ '22/9 39.3%
流動資産	3,006	(+355)																																																								
現金及び預金	114	(▲23)																																																								
受取手形及び売掛金	963	(+60)																																																								
棚卸資産(在庫)	1,715	(+274)																																																								
固定資産	2,462	(+55)																																																								
有形固定資産	1,502	(+48)																																																								
無形固定資産	124	(+12)																																																								
投資その他の資産	834	(▲5)																																																								
総資産	5,468	(+411)																																																								
流動負債	2,092	(+314)																																																								
支払手形及び買掛金	477	(▲25)																																																								
短期借入金	1,160	(+328)																																																								
未払費用	259	(+7)																																																								
固定負債	1,179	(▲13)																																																								
長期借入金	923	(▲25)																																																								
純資産	2,196	(+110)																																																								
自己資本	2,146	(+248)																																																								
自己資本比率																																																										
'22/3	37.5%	⇒ '22/9 39.3%																																																								

2023年3月期 第2四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

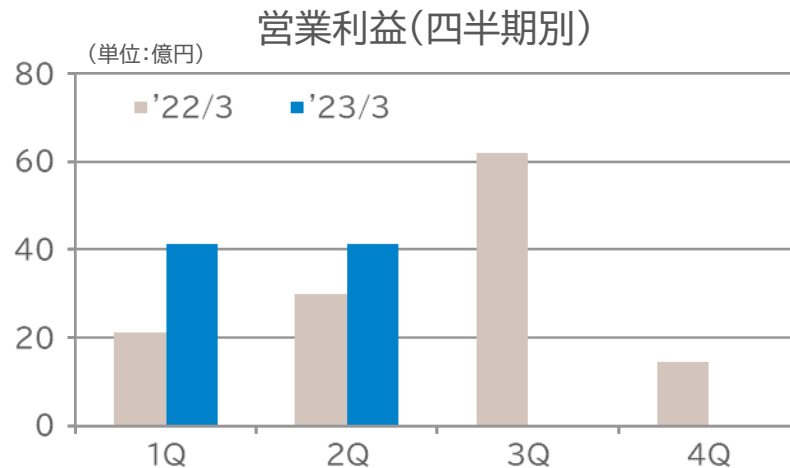
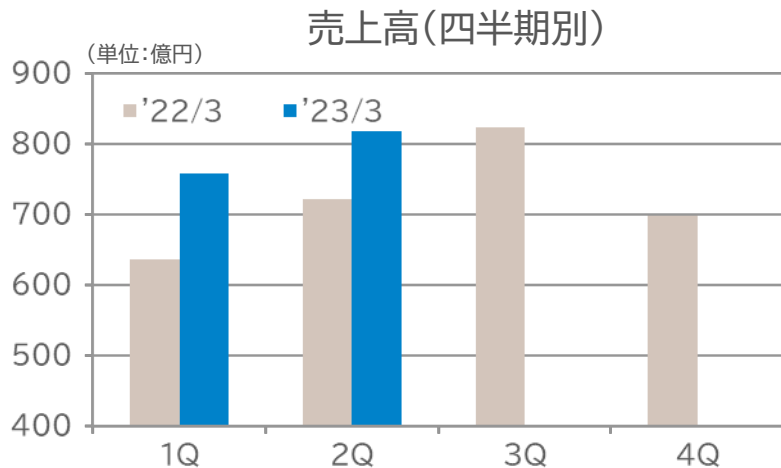
人流回復に伴う活動量増で運転資本が増加し営業CFはマイナス。

(単位: 億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減
・税金等調整前当四半期純利益	164	170	5
・減価償却費(のれん償却含む)	96	96	0
・運転資本	▲ 109	▲ 314	▲ 204
・法人税等の支払額	▲ 43	▲ 80	▲ 36
・その他	▲ 32	0	32
営業活動によるCF	74	▲ 128	▲ 203
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 96	▲ 106	▲ 10
・その他	▲ 0	4	4
投資活動によるCF	▲ 96	▲ 101	▲ 5
・短期借入金の増減額	106	292	185
・長期借入金の増減額	▲ 21	▲ 42	▲ 20
・その他	▲ 23	▲ 31	▲ 7
財務活動によるCF	61	218	157
現金及び現金同等物の期末残高	189	154	

2023年3月期 第2四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

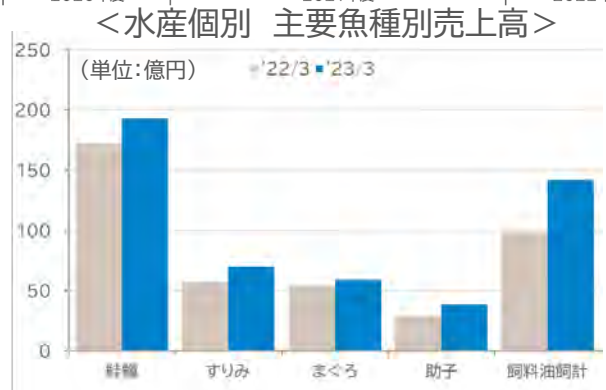
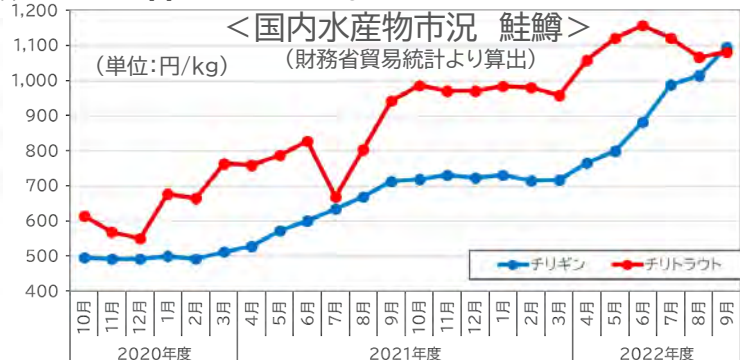
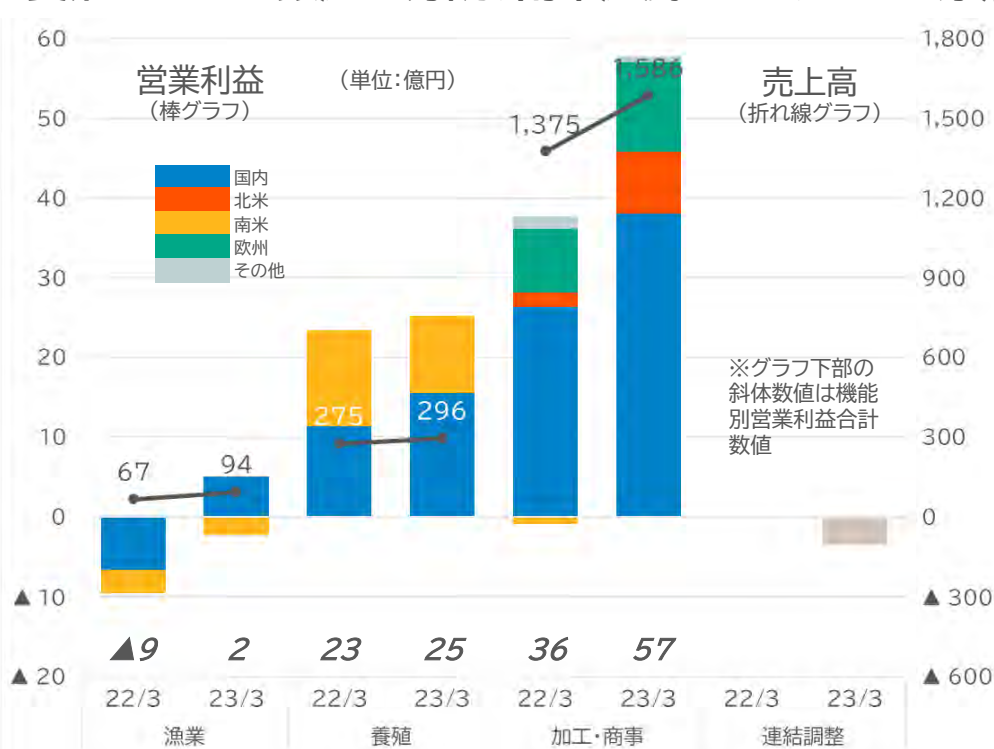
販売価格堅調に加え為替影響もあり大幅増収増益。

(単位:億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,356	1,574	218	16.1
営業利益	50	82	31	61.4



2023年3月期 第2四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

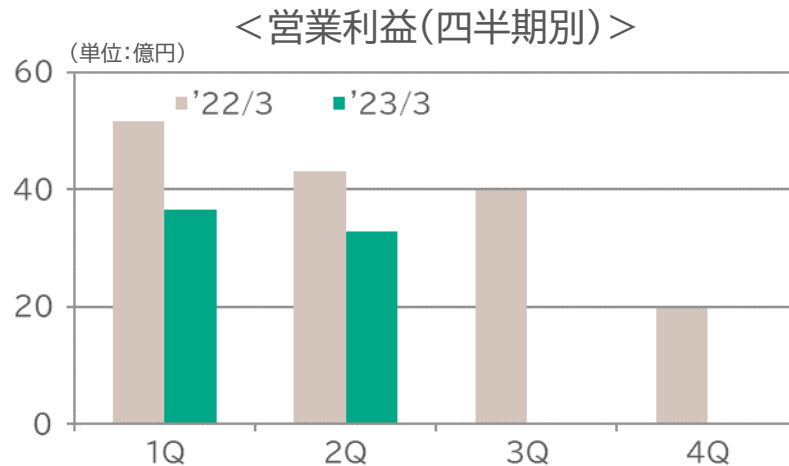
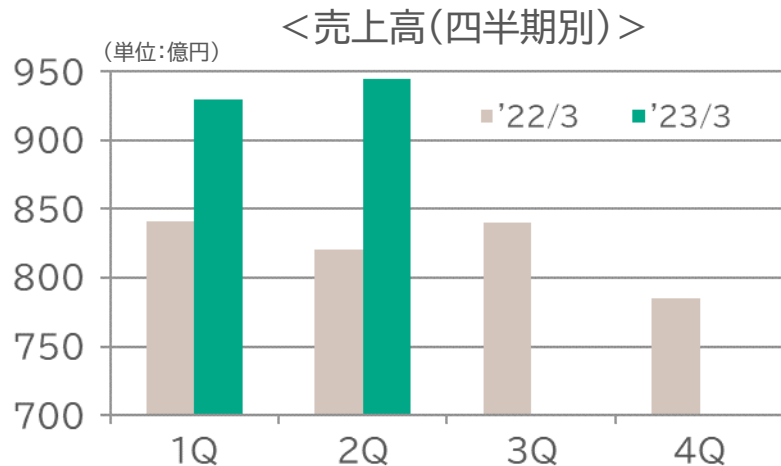
- ・加工商事は販売好調に加え、北米での経費削減などもあり大幅増益。
- ・養殖はぶりや銀鮭が好調、南米鮭鱒やまぐろでの原魚コスト増をカバー。



2023年3月期 第2四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

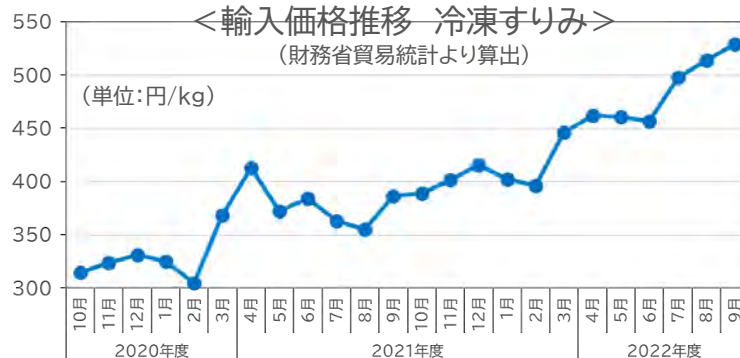
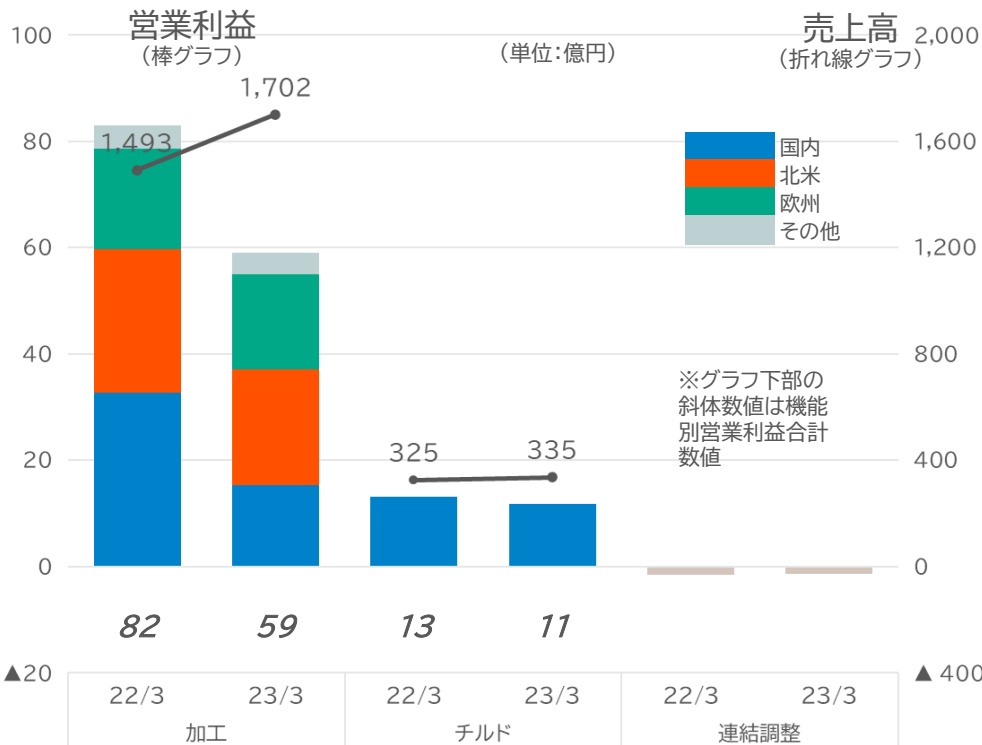
- ・値上げによる販売価格上昇や円安の影響もあり増収。
- ・原材料価格上昇や急激な為替変動に対し値上げが追いつかず減益。

(単位:億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,661	1,873	212	12.8
営業利益	94	69	▲25	▲26.5

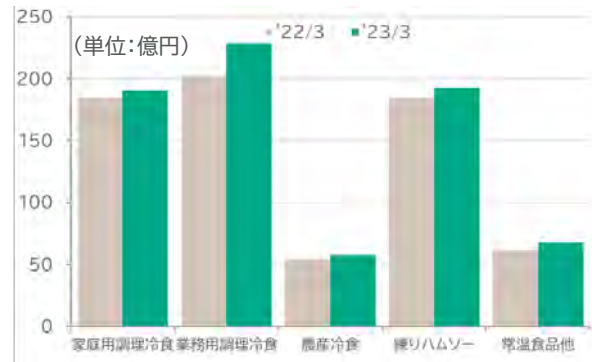


2023年3月期 第2四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

- ・北米は家庭用で値上げ後も販売好調を維持するも、業務用が苦戦し減益。
- ・特に日本は原材料他コストアップ・円安に値上げが追いつかず苦戦。



<食品個別 カテゴリー別売上高>



コストアップ・値上げ 第2四半期までの実績

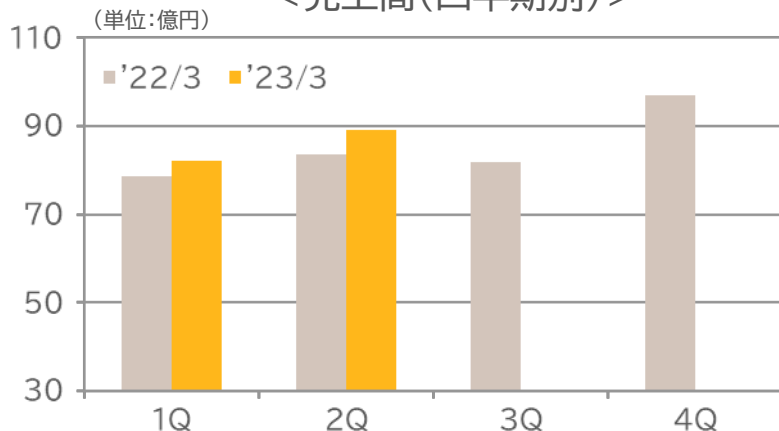
国内外で値上げを実施するも、コストアップが想定を超えるスピードで進行。

前年同期比		日本		北米		欧州		アジア		合計	
コストアップ	原料コスト	▲44	億円	▲33	億円	▲8	億円	▲0	億円	▲86	億円
	物流・電力料・他	▲6	億円	▲7	億円	▲10	億円	▲0	億円	▲24	億円
	合計	▲50	億円	▲41	億円	▲18	億円	▲1	億円	▲111	億円
値上げ効果・販売増力 他		31	億円	34	億円	17	億円	1	億円	84	億円
差引 コストアップ影響額		▲19	億円	▲7	億円	▲1	億円	▲0	億円	▲27	億円

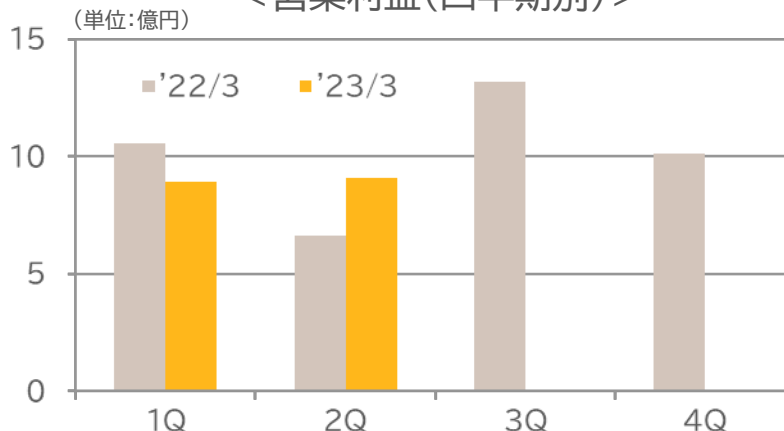
医薬原料の輸出に加え、健康食品の通販が堅調。オミクロン変異株の感染再拡大(第7波)によるPCR検査薬販売もあり増収。

(単位:億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	162	171	9	5.6
営業利益	17	18	0	4.7

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>

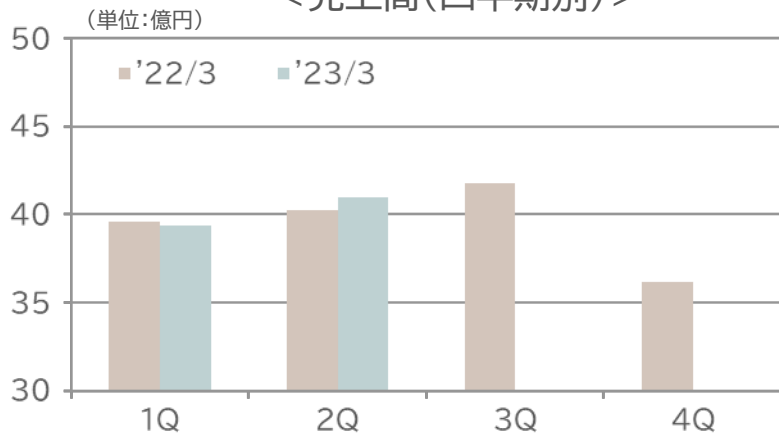


2023年3月期 第2四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

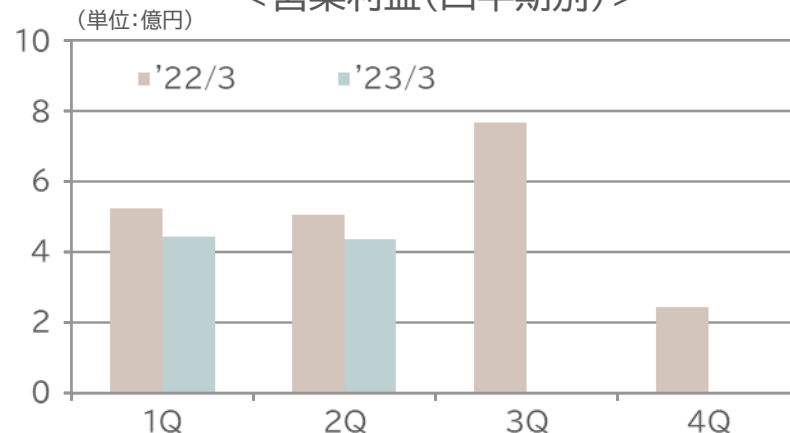
通関事業が堅調に推移するも、電力料他コストアップもあり前年同期並み。

(単位:億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	79	80	0	0.6
営業利益	10	8	▲1	▲14.7

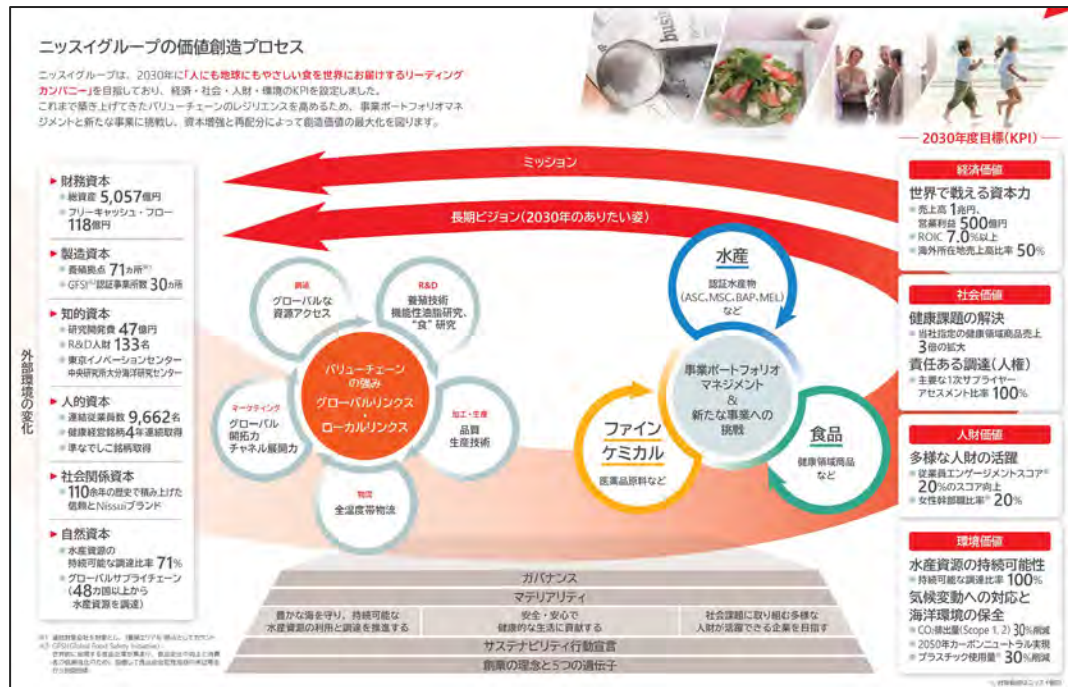
<売上高(四半期別)>



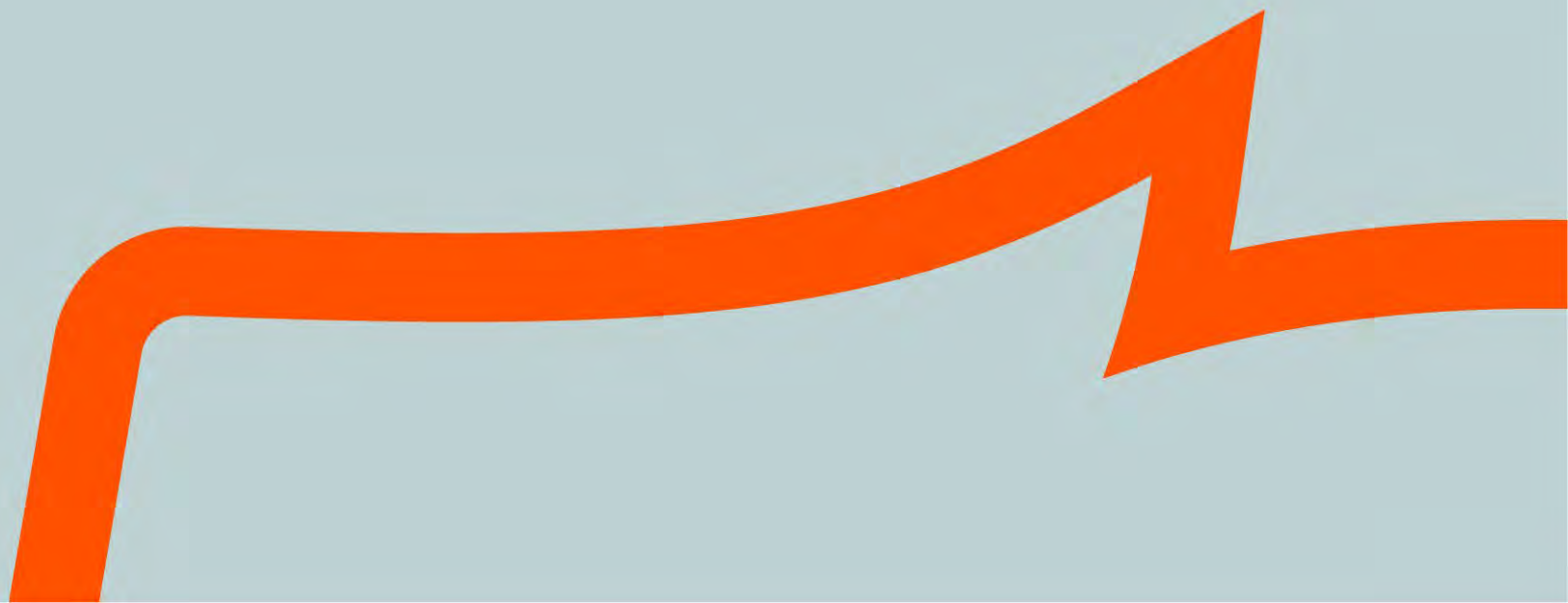
<営業利益(四半期別)>



企業価値向上に向けた新たなミッション・長期ビジョン、価値創造プロセス、バリューチェーンなどを紹介。



今後の見通し・取組み



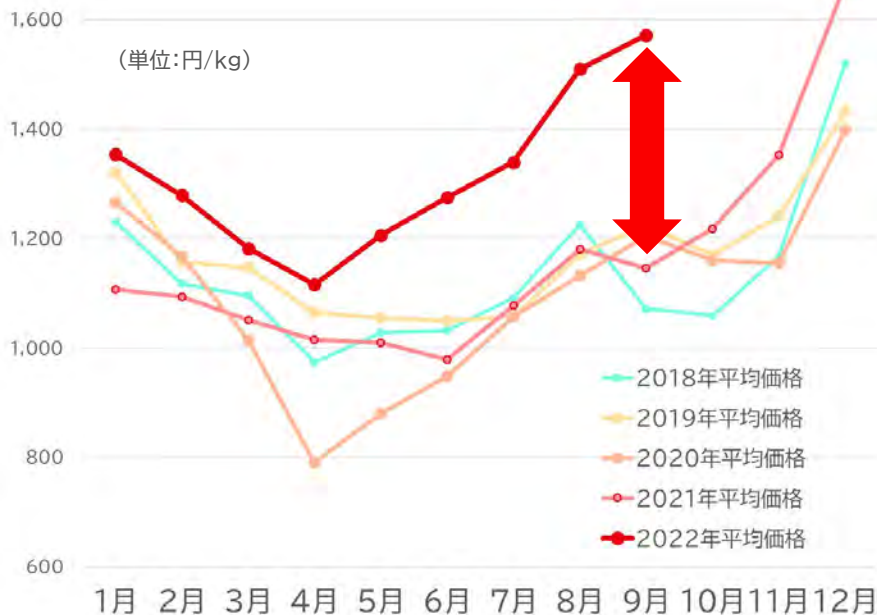
想定以上の急激な円安や水産物市況価格の変動など事業環境が複雑化。

▶ 為替レート(日本円/米国ドル)



▶ 水産物市況価格

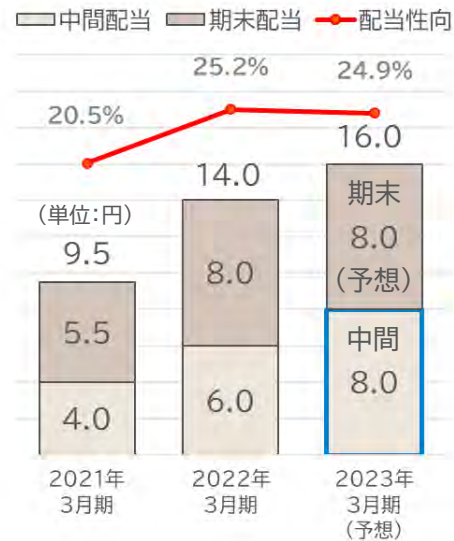
(出典:東京都中央卸売市場 市場統計情報-鮮魚全体)



売上高と当期純利益は計画を上方修正する。営業利益・経常利益は据え置き。

- 売上高は水産品の販売価格上昇や食品の値上げ、円安の影響などにより上振れ。
- 食品で引き続きコストアップと値上げにタイムラグが残るうえ、医薬原料の輸出中断もあり苦戦。
- 当期純利益は日水製薬株式の売却益もあり増益。初めて200億円台に到達する計画。

	2022年3月期 前期実績	2023年3月期 修正計画	対前期比 増減		2023年3月期 期初計画 (5月発表)	対期初計画比 増減
			増減	増減率(%)		
売上高	6,936 億円	7,500 億円	563 億円	8.1	7,200 億円	300 億円
営業利益	270 億円	225 億円	▲45 億円	▲16.9	225 億円	0 億円
経常利益	323 億円	255 億円	▲68 億円	▲21.2	255 億円	0 億円
当期 純利益	172 億円	200 億円	27 億円	15.8	180 億円	20 億円



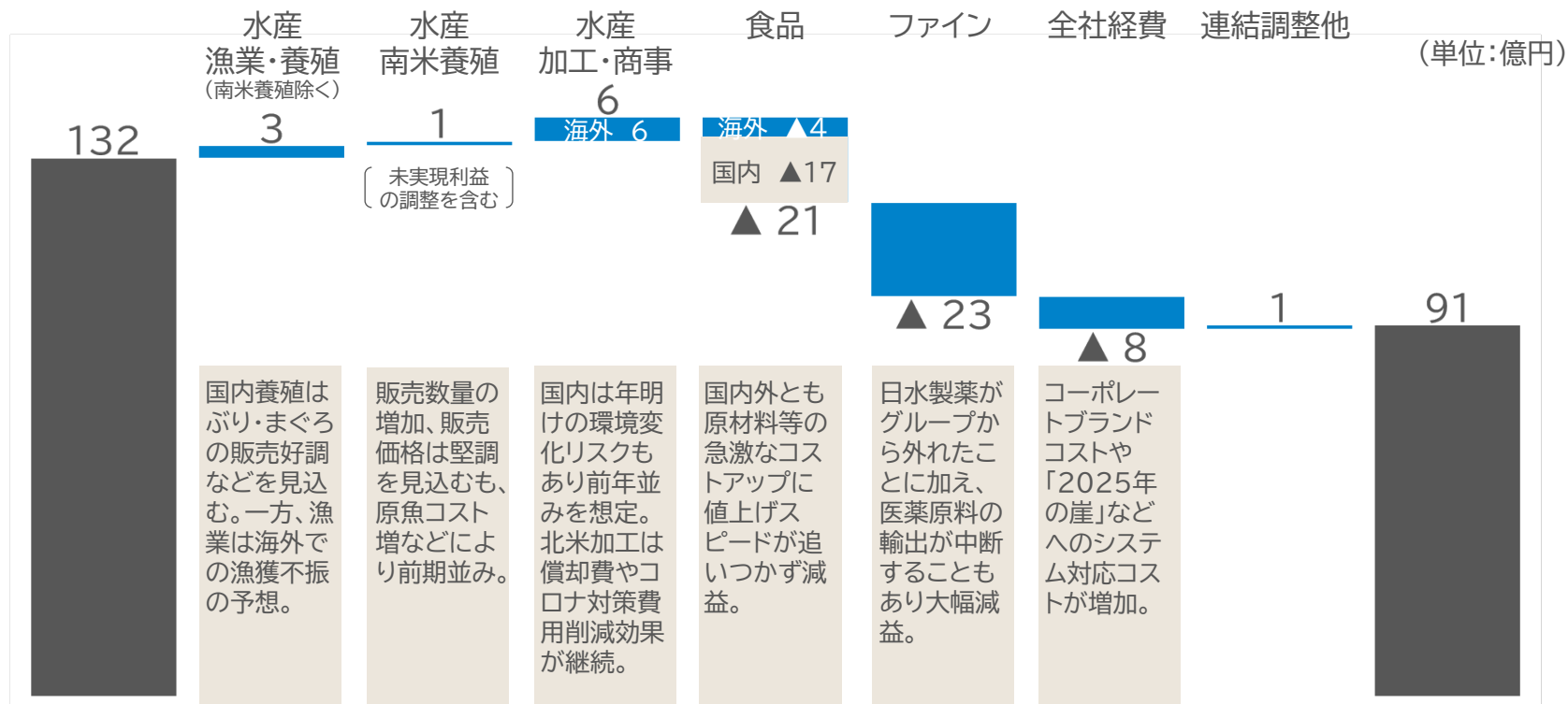
2023年3月期 通期見通し セグメント毎の計画を変更

- ・売上高は水産・食品とも増収だが、日水製薬の売却、医薬原料輸出中断によりファインは減収。
- ・営業利益は水産の大幅増益により、食品とファインの減益をカバーする見込みで連結営業利益に変更は無いが、セグメント毎にはブレがあることから変更する。

(単位:億円)	2023年3月期 期初計画 (5/12公表)	2023年3月期 修正計画	対期初計画比増減		2022年 3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)		(億円)	率(%)
売上高	7,200	7,500	300	4.2	6,936	563	8.1
水産事業	2,916	3,120	204	7.0	2,877	242	8.4
食品事業	3,607	3,800	193	5.4	3,286	513	15.6
ファインケミカル事業	324	250	▲74	▲22.8	340	▲90	▲26.6
物流事業	159	160	1	0.6	157	2	1.4
その他	194	170	▲24	▲12.4	274	▲104	▲38.1
営業利益	225	225	0	0.0	270	▲45	▲16.9
水産事業	120	175	55	46.3	127	48	38.0
食品事業	140	107	▲33	▲23.6	154	▲47	▲30.5
ファインケミカル事業	39	18	▲20	▲52.6	40	▲22	▲54.3
物流事業	19	17	▲2	▲12.8	20	▲3	▲16.7
その他	6	6	0	0.0	10	▲3	▲35.4
全社経費	▲100	▲99	0	▲0.5	▲81	▲18	22.2

2023年3月期 下期見通し 主な営業利益増減要因(前年同期比)

食品は追加値上げを予定するも、原材料価格上昇や為替影響を年度内にはカバーしきれず苦戦を見込む。ファインは日水製薬の売却と医薬原料の輸出中断により減益。



水産市況の動向に警戒感を持って、在庫マネジメントを徹底する。

(単位:億円)	2022年3月期 下期実績	2023年3月期 下期修正計画	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,521	1,545	24	1.6
営業利益	76	93	16	22.3

▶ 下期以降のポイント

<国内>

- ― 最需要期である第3四半期と年明け以降の環境変化を念頭に置いて、在庫マネジメントを強化する。
- ― 養殖は需要期のぶり・まぐろの販売強化、来期に向け銀鮭の養殖規模拡大などを図る。
- ― (株)アクアプラットフォームを設立し「集約型流通事業」の取組みを2023年1月より開始。

<海外>

- ― (南米)フィレ製造ラインへの投資による高付加価値品販売の拡大や自動給餌機の導入などで収益力を向上させる。
- ― (北米)加工事業での水産資源アクセス拡大に向けた取組みを継続。
- ― (欧州)新たなビジネスを獲得し、事業拡大をさらに進める。

値上げに加え、個食・簡便、健康ニーズに合った商品の開発・販売力強化とアイテム削減、受注・生産オペレーションコストの削減などの効率化を急ぐ。

(単位:億円)	2022年3月期 下期実績	2023年3月期 下期修正計画	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,624	1,926	301	18.5
営業利益	59	37	▲21	▲36.9

▶ 下期以降のポイント

<国内>

- 一 今年度より事業開始したキューディッシュ(フローズンチルド惣菜)は生産性を高め販売攻勢に出る。
- 一 家庭用・業務用とも年度内の追加値上げを実施予定。
- 一 収益性が低いアイテムの削減、配合変更などによる生産効率向上、受注オペレーションの効率化、包材変更などにより収益性改善を急ぐ。

<海外>

- 一 (北米・欧州)家庭用・業務用とも追加値上げを実施予定。
- 一 (北米)家庭用えびカテゴリ商品の拡大。業務用は日本から輸出するシュウマイなどアジア食品市場向けの販売を強化する。(2022年から販売開始)
- 一 (欧州)英国での統合による生産ラインの整備、フランスでの工場買収による供給能力拡大で販売拡大と生産性改善を図る。

今後の打ち手・取組み : コストアップ・値上げ 年間見通し

コストアップへの対応が最大の経営課題。

2021年前期比		日本		北米		欧州		アジア		合計	
コストアップ	原料コスト	▲116	億円	▲77	億円	▲29	億円	▲2	億円	▲225	億円
	物流・電力料・他	▲14	億円	▲11	億円	▲31	億円	▲1	億円	▲59	億円
	合計	▲131	億円	▲89	億円	▲61	億円	▲3	億円	▲284	億円
値上げ効果・販売増力 他		95	億円	83	億円	54	億円	2	億円	236	億円
差引 コストアップ影響額		▲35	億円	▲5	億円	▲6	億円	▲0	億円	▲48	億円

米国向け販売は中断するも、欧米向け医薬原料販売の拡大に向けて、生産・販売の両面で体制を整える。日水製薬の連結除外もあり下期は減収減益。

(単位:億円)	2022年3月期 下期実績	2023年3月期 下期修正計画	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	178	78	▲99	▲55.9
営業利益	23	0	▲22	▲97.9

▶ 下期以降のポイント

<医薬原料>

- 一 前年下期からスタートした米国向けは中断も、ビジネス拡大に向けた取組みを継続。
- 一 欧州への展開に向けた品質保証体制の強化、12月の登録申請に向け準備中。
- 一 生産工場はトラブルにより生産停止中、11月より稼働を再開する。

<機能性原料>

- 一 原料調達が多様化
- 一 原料規格厳格化要請への対応を進める。

<機能性食品・通販・他>

- 一 DHA由来商品を中心に、さらなる商品展開を進める。
- 一 ドラッグストアとの協働による小売市場への展開(速筋タンパク粉末飲料など)。



11/1発売の新品
機能性表示食品
「加齢に伴い低下する
認知機能の一部である
記憶力を維持する」

SeaBOS※に参画し水産資源の持続可能性に向けた取組み実現を目指す。

※SeaBOS: Seafood Business for Ocean Stewardship、持続的な水産ビジネスを目指すイニシアティブ

▶ SeaBOSについて

- ー 2016年11月に海洋環境および海洋資源の保全と持続的な資源利用を進めるイニシアティブとして設立。世界の主要水産関連企業10社(創設時は8社)が協働し、科学的側面からのサポートを受けて活動している。
- ー ニッスイは2016年12月にSeaBOSに署名・参画、SeaBOSの考え方に賛意を表明するとともに、サステナビリティ推進活動の一環として取組みを進めていくことを宣言。

▶ 主な議論のテーマ

- ・IUU(違法・無報告・無規制)漁業および強制労働・児童労働の撲滅
- ・絶滅危惧種への対応
- ・養殖における抗菌剤使用削減
- ・海洋プラスチック問題
- ・気候変動問題

水産資源の持続可能性に向けた取組みをリードする



2022年10月のSeaBOS会議(アムステルダム)の様子
(当社社長 浜田が参加)

すけそうだらに含まれる「速筋タンパク」の有効性や商品設計への活用が評価される。

- ▶ 「スケソウダラのロコモーション改善機能性研究、並びに社会実装」が「令和4年度 民間部門 農林水産研究開発功績者表彰」農林水産大臣賞を受賞

ー（受賞理由）

『スケソウダラのタンパク質であるAPPが、速筋を肥大させ、運動介入を併用せずに筋肥大を起こすことを明らかにし、この特徴を製品化に結び付けている。高齢化社会におけるクオリティ・オブ・ライフ低下の要因の一つとなっているロコモティブシンドロームに食の面から改善できることが期待される。』

**「速筋タンパク」など美味しく健康に寄与する
健康領域商品群の販売を強化する**



2022年4月から新ブランドをスタート

ミッション(ブランドプロミス)

私たちを突き動かすもの。
それは「人々により良い食をお届けしたい」という志。

海で培ったモノづくりの心と未知を切り拓く力で、
健やかな生活とサステナブルな未来を実現する
新しい“食”を創造していきます。



まだ見ぬ、食の力を。

■ ミッション(ブランドプロミス)に込めた思い

「食」に注力
する企業へ


海で培った
モノづくりの心
未知を切り拓く力

サステナブルな
未来を見据えて
進んでいく決意

リブランディングと共に社名変更し「新しいニッスイ」を目指します。

	新社名
社名(日)	株式会社ニッスイ
社名(英)	Nissui Corporation

ニッスイグループは
人々の多様な食に対するニーズに応えるため幅広い事業展開を進めてきました。
「水産」という特定の事業を表現した現在の商号では、
当社および当社グループの実状を十分に表さなくなったことから変更することとしました。



急激なインフレや円安など
難しい環境が予想されますが、
変化への対応力を上げ、
長期ビジョン「人にも地球にもやさしい食を
世界にお届けするリーディングカンパニー
(Good Foods 2030)」
達成に向けて取組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

日本水産株式会社

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

參考資料

2023年3月期 第2四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
売上高	3,396	3,772	375	
売上総利益	552	589	37	
販売費・一般管理費	413	455	42	
営業利益	138	133	▲ 5	
営業外収益	31	21	▲ 9	持分法投資利益▲10
営業外費用	8	7	▲ 0	
経常利益	161	147	▲ 14	
特別利益	9	36	27	関係会社株式売却益+34 受取保険金▲5
特別損失	6	13	6	
税金等調整前四半期純利益	164	170	5	
法人税等	44	53	9	
法人税等調整額	0	▲ 5	▲ 6	
四半期純利益	119	122	3	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	5	5	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	117	3	

2023年3月期 第2四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	707	767	737	915	30	147	32	115
EUR(百万ユーロ)	178	232	199	270	21	37	27	9
DKK(百万クローネ)	1,416	248	1,827	332	410	84	72	11
その他通貨	—	128	—	150	—	22	11	11
計		1,376		1,669		292	143	148

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第2四半期の平均

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	変動率
米ドル(USD)	109.76 円	131.25 円	19.6%
ユーロ(EUR)	132.44 円	138.75 円	4.8%
デンマーククローネ (DKK)	17.81 円	18.65 円	4.7%

2023年3月期 第2四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,145 (136)	289 (6)	147 (35)	30 (▲2)	365 (83)	1,977 (260)	▲403 (▲42)	1,574 (218)
	1,008	283	111	32	281	1,717	▲361	1,356
食品事業	1,205 (51)	476 (105)		46 (8)	310 (54)	2,038 (219)	▲164 (▲7)	1,873 (212)
	1,153	371		38	255	1,818	▲157	1,661
ファイン 事業	182 (7)			2 (▲0)		184 (7)	▲13 (1)	171 (9)
	174			2		177	▲15	162
物流事業	149 (8)					149 (8)	▲69 (▲7)	80 (0)
	141					141	▲61	79
その他 事業	119 (▲47)			0 (▲0)		119 (▲47)	▲47 (▲17)	72 (▲64)
	166			0		167	▲30	136
仮計	2,801 (157)	766 (111)	147 (35)	80 (5)	675 (138)	4,470 (448)		
	2,644	654	111	74	537	4,022		
連結調整	▲453 (▲51)	▲77 (9)	▲98 (▲22)	▲55 (▲1)	▲13 (▲7)		▲698 (▲72)	
	▲401	▲87	▲76	▲54	▲6		▲626	
連結 計	2,348 (106)	688 (121)	48 (13)	24 (4)	661 (130)			3,772 (375)
	2,242	567	35	19	530			3,396

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

2023年3月期 第2四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	58 (27)	7 (5)	7 (▲0)	0 (▲1)	11 (3)		85 (34)	▲3 (▲3)	82 (31)	5.2 (1.5)
	31	1	8	1	7		50	0	50	3.8
食品事業	27 (▲18)	21 (▲5)		4 (▲0)	17 (▲1)		70 (▲25)	▲1 (0)	69 (▲25)	3.7 (▲2.0)
	45	27		4	19		96	▲1	94	5.7
ファイン 事業	17 (0)			0 (▲0)			17 (0)	0 (0)	18 (0)	10.5 (▲0.1)
	16			0			17	0	17	10.6
物流事業	8 (▲1)						8 (▲1)	0 (▲0)	8 (▲1)	10.9 (▲2.0)
	10						10	0	10	12.9
その他 事業	5 (1)			0 (▲0)			5 (1)	▲1 (▲1)	4 (▲0)	5.6 (2.5)
	3			0			4	0	4	3.1
全社経費						▲49 (▲11)	▲49 (▲11)	0 (0)	▲49 (▲10)	
						▲38	▲38	▲0	▲38	
仮計	116 (9)	29 (0)	7 (▲0)	5 (▲1)	29 (2)	▲49 (▲11)	139 (▲1)			
	107	28	8	6	26	▲38	140			
連結調整	▲4 (▲3)	▲2 (▲4)	2 (2)	0 (1)	▲1 (▲0)	▲0 (▲0)		▲5 (▲4)		
	▲1	2	0	▲1	▲1	0		▲1		
連結 計	112 (6)	27 (▲4)	10 (2)	5 (▲0)	27 (1)	▲49 (▲11)			133 (▲5)	3.5 (▲0.5)
	105	31	8	5	25	▲38			138	4.1

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

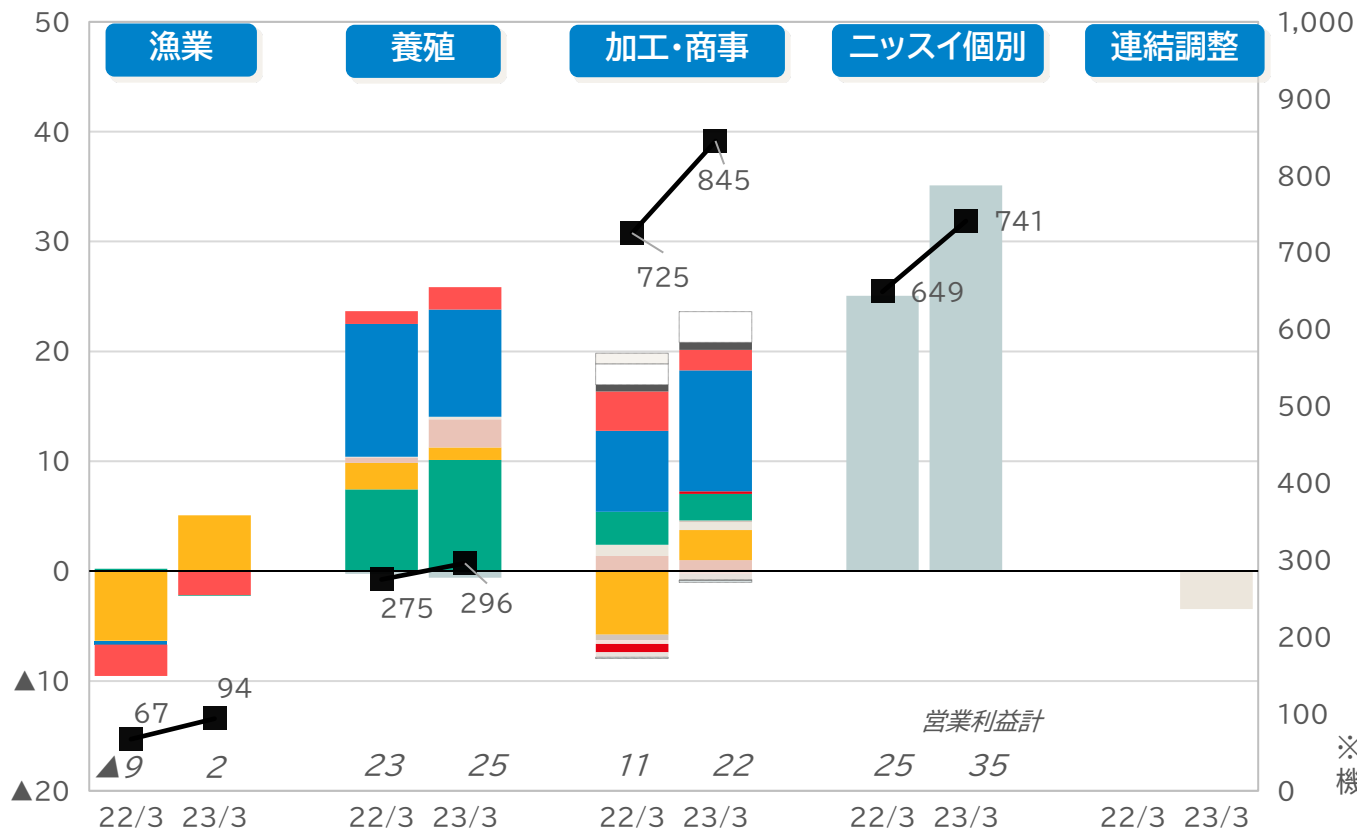
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

2023年3月期 第2四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)



棚卸資産の
未実現利益、
のれん償却等
含む

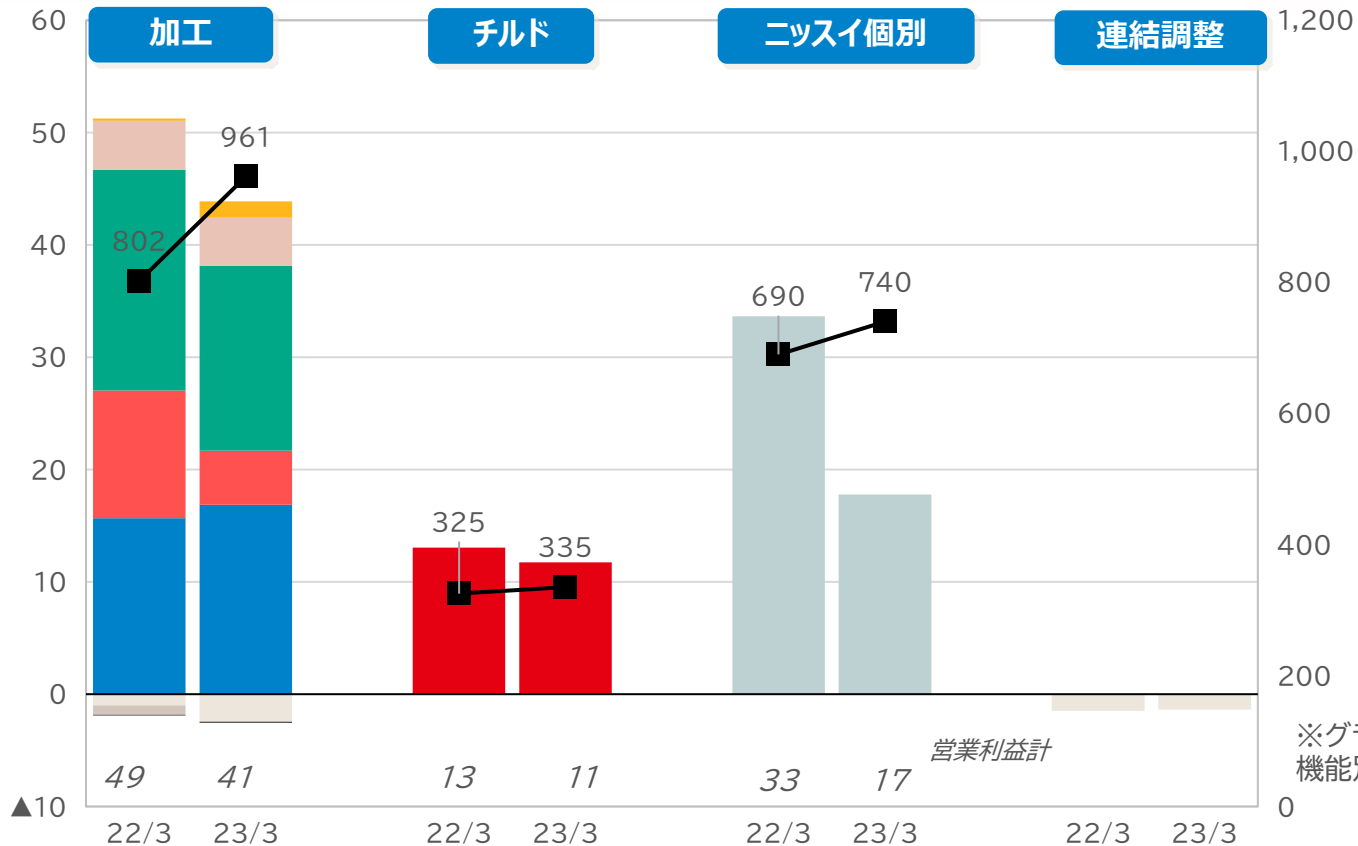
※グラフ下部の斜体数値は
機能別営業利益合計数値

2023年3月期 第2四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

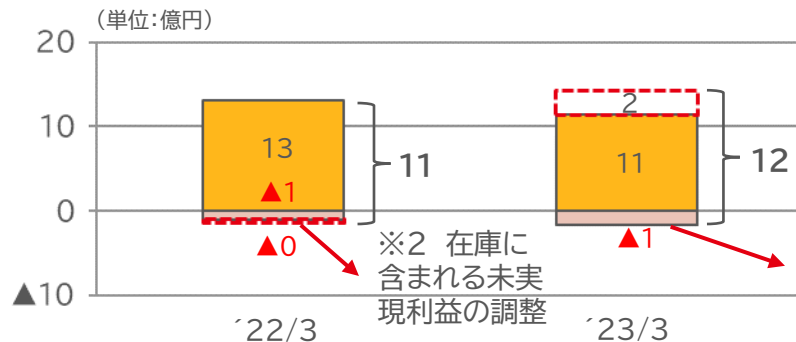
売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)



※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

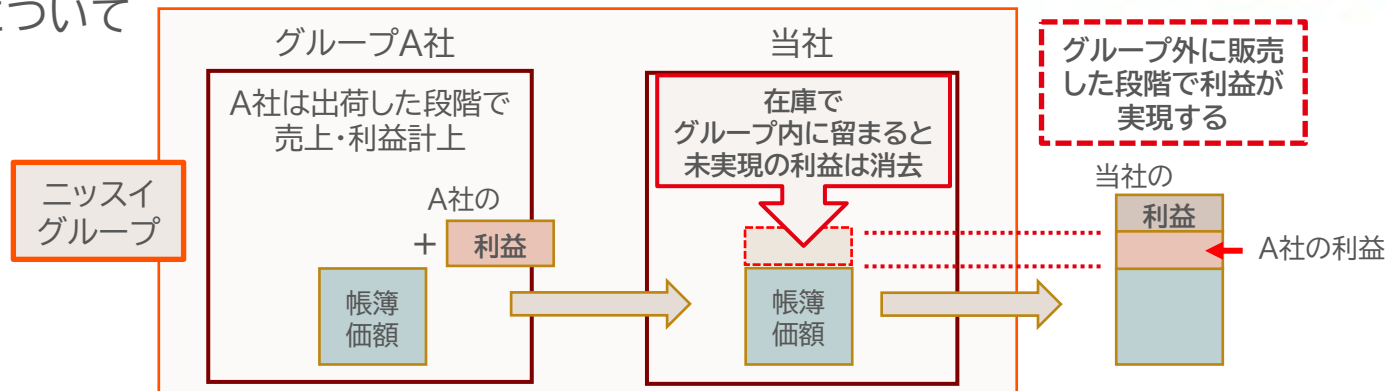
未実現利益を含めた南米養殖事業の利益は、ほぼ前年並み。



※1 生簀にいる出荷前の魚(在池魚)の想定利益

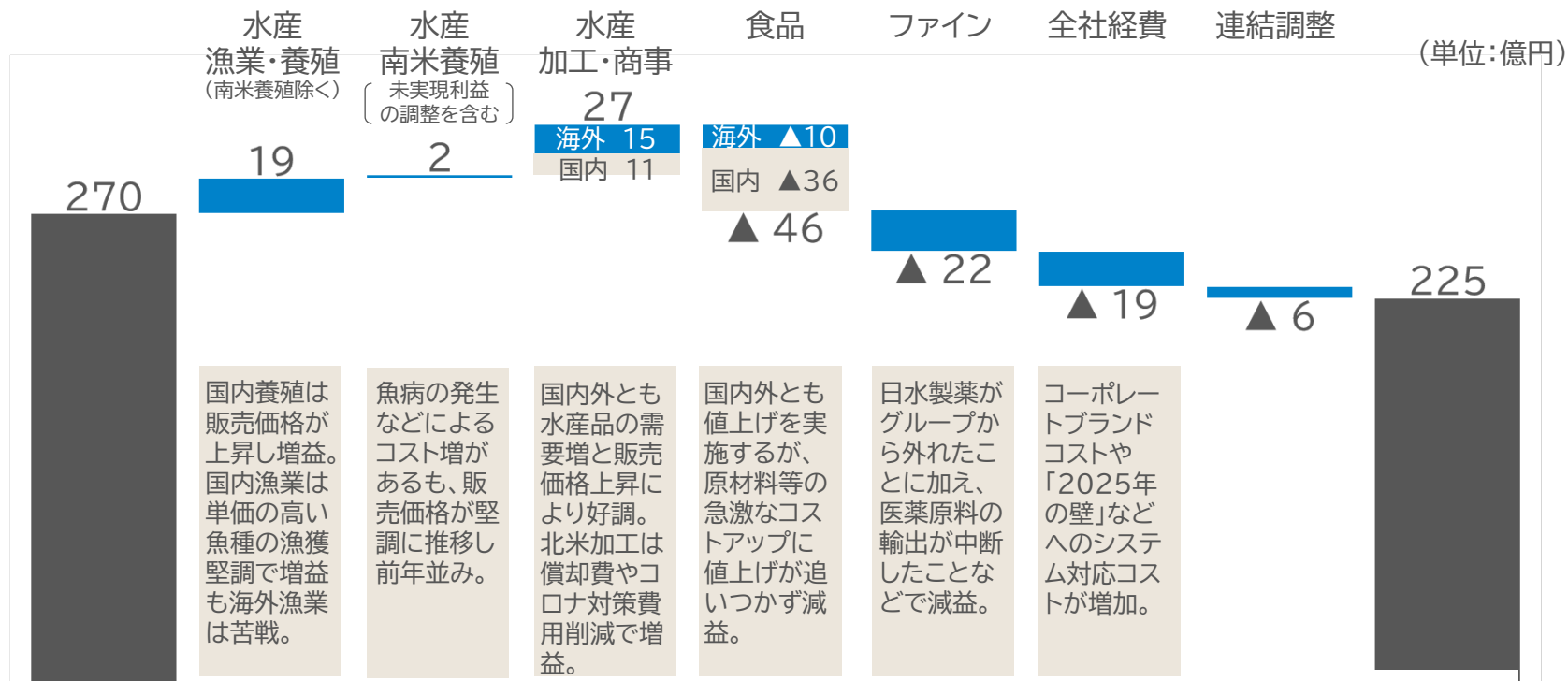


▶ 未実現利益について



2023年3月期 年間見通し 主な営業利益増減要因(前期比)

- ・水産が大幅増益も、食品とファインケミカルの落ち込みをカバーしきれず。
- ・コーポレートブランド浸透に向けた投資もあり全社経費が増加し減益。



2023年3月期 年間見通し 主な営業利益増減要因(期初計画比)

(単位:億円)	2023年3月期 期初計画 (5/12公表)	2023年3月期 修正計画	対期初計画比増減	
			(億円)	率(%)
営業利益	225	225	0	0.0
水産	漁業・養殖 (南米養殖除く)	37	8	30.6
	南米養殖 (未実現利益の調整を含む)	22	11	51.5
	加工・商事	69	34	49.3
食品	141	108	▲32	▲23.2
ファイン	38	18	▲20	▲53.5
全社経費	▲99	▲99	0	▲0.0
連結調整他	23	22	▲1	

コメント
国内養殖はぶりや銀鮭で魚体重増による単価増効果。漁業は国内の漁獲好調。
販売数量は減少するものの、販売価格が上昇したことで増益基調。
国内外とも水産品の需要増と価格上昇により好調。
原材料等の急激なコストアップに値上げが追いつかず減益。
医薬原料の米国輸出が中断したことに加え、日水製薬がグループから外れたことで減益。